思想戰講座　第一輯

外交戰に伴ふ思想戰

秘

内閣情報部

アジア歴史資料センター
http://www.jacar.go.jp

一、本講座は思想戰に對する一般の認識を深めるために指導者用資料として發行するものである。

一、本稿は內閣情報部主催の下に昭和十五年二月二十三日から六日間に亙つて開かれた第三回思想戰講習會講義速記錄に加筆修正したものである。

昭和十五年五月十日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

内閣文庫
八九五五号
和書 冊

393
33

外交戰に伴ふ思想戰

外務省情報部長 須磨彌吉郎

私は只今御紹介に預りました須磨でございます。私の本日申上げますことは「外交戰に伴ふ思想戰」と云ふことになつて居りますが、大體只今行はれつゝある世界外交戰と申しませうか、外交問題の推移を中心と致しまして、如何に其の間に思想戰と申しませうか、宣傳の戰が行はれつゝあるかと云ふことを申上げて見たいと存ずるのであります。

御承知の通り最近の戰爭は武器を以て致しまする所謂實戰も勿論其の大切な部面でありますけれども、之と竝んで思想戰、宣傳を以て致します戰爭が是亦非常に大きな部面を占めて居るのでございます。單に戰時に於てのみならず、戰爭のない所謂平時に於きましても、此の思想の宣傳、思想戰と云ふものが火花を散らして居る譯でございます。此の傾向は最近特に甚だしいのでございますけれども、昔から外交史上に非常に有名になつて居りますタレーラン、マキアベリーなどの外交をやつて居りました時代にも、先づ書面を以てする、或ひは口を以てする戰爭をしなければならぬと云ふことがタレーランなどのメモアールの一番先に書いてあるのでございます。昔から左樣な方法が行はれつゝあつたことは明らかでございます。此のことは後からも觸れたいと存じますが、獨り西洋に於てのみならず、我が東洋に於て、殊に支那に於ては當時思想戰と云ふ言葉は勿論宣傳と云ふ言葉すらなかつたのでありますけれども、支那に於ては昔から此の宣傳と云ふことは餘程必要なことになつてゐたのであります。六朝時代から既に左樣

な傾向を認めることが出來ると云ふ事を申上げて宜いと思ふのであります。譬へて申しますならば、蔣介石が國民革命軍を率ひまして、北伐軍を起した時に使つた「北伐未だ成功せず」といふ言葉が、四億五千萬の民衆を驅つて革命的な方向に向けて行つたと云ふことは、最近の革命史上に明らかなことでございます。此の「北伐未だ成功せず」と云ふ文句に依ります思想的な戰法、是などは人に依りましては、之に依つて國民政府が出來て參つたと云ふやうな事を申して居ります。私の記憶に依りますと「北伐未だ成功せず」と云ふことは、南宋の時代の岳飛と云ふ偉い將軍がございますが（今杭州に參りますと岳飛の墓が在ります）彼がこの言葉を使つて居るのであります。斯樣な例を拾つて來ると、支那では實に多いのでありさす。然し昔から宣傳と云ふ言葉はなく、又思想戰といふ言ひ表し方もないのでありますけれども、實質的には左樣なものが行はれて居つたのでございます。それで此の思想的な戰爭と云ふことが最も顯著に現れて來たのは最近でありますが、昔から其の例があると云ふ事を先づ考へて置かなければならぬのであります。

最近に於きまして之を最も強くやり出したのは、矢張り何と云つても第一次世界大戰、此の前の千九百十四年の世界大戰に於ける獨逸の宣傳戰であらうと思ふのであります。御承知の如く當時の獨逸は、外務省に當ります外交機關の中に文化部と云ふものがあつたのであります。此の文化部は譬へて言へば、今日日本で申して居ります文化事業部といふやうなものではないのでありまして、もつと廣い部面に活動することを目的と致したものであります。即ち獨逸の有つて居る文化は世界に類の無い文化であると云ふことを中心として、世界に之を知らしめると云ふ仕組であつたのでありますが、中を開けて見れば外交參謀本部なのであります。此の文化部は大戰を目掛けて出來たものでありまして、さういふ名前は獨逸の外務省にはなかつたのでありますが、實は前からさう云ふものが存在して

居つたのであります。

ビスマルクが千八百七十年所謂普佛戰爭に於て、獨逸の國民的統一をやるといふことを申しました時でも、彼は非常な苦心を以て、獨逸の民族的結合が必要であると云ふことを常に考へて居つたのであります。殊にビスマルクの如きは公式に當時外交部から出します文書、今で申しますコンミュニケは總てビスマルク自から筆を執り普佛戰爭の時の開戰宣言のコンミュニケの如きは二晩を費して、パンクチュエーションと申しますか、何處にコンマを打つか、何處にピリオドを打つかと云ふことにまで力を盡したと云ふことが、彼の傳記に出て居ります。斯樣に昔から獨逸建國以來外交の根本と致しまして、今の言葉で言へば思想戰、之に力を注いで居つたのでありまして、其の現れが今申しました所の文化部であります。私は千九百二十三年獨逸に參つて居つた者でありますが、戰後の獨逸が非常に國歩艱難の時に、更に佛蘭西が兵力を以てルール地方を占領致しました。其の時私はロンドンからベルリンに轉勤をして參つたのでありますが、あの當時の思想的な尖鋭振りと云ふものは實に大變なものであつたと云ふことを記憶致すのでございます。外務大臣となつて居つたのが有名なストレーゼマン、其の下に政務局長を致して居りましたのがデルクス、此の三人が顔を合せて宣傳戰に努めて居つたのであります。此の三巨頭の外交部に於ける時間を費す部面と云ふものは概ね宣傳戰であり、思想戰であつたと云ふ事をはつきり今思ひ出すのであります。其の頃から、私は今日の獨逸、復興せる獨逸と云ふものが出來上つたのは、ヒトラーの力に俟つものが勿論大でありますが、之を外交的に見ますと、矢張り此のストレーゼマンの力が非常にあつたと思ふのであります。極めて柔かい言ひ方でありましたけれども、ストレーゼマンが常に民族的結合を必要とし、又其の民族の下

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

に有る所の獨逸の文化、是はどうしても立てなければいかぬ、又獨逸の文化を尊重しないことは歐洲全體のみならず、全人類の不幸であらうといふやうなことを申したのであります。

特に私の敬服に堪へませんことは、御承知の如く、當時の獨逸と云ふものはマルクがインフレーションの爲に一日一日なら宜しうございますが、一時間一時間に下つて居つたのであります。私共がカフェーに珈琲を飲みに入つて居ると、入る時は一杯の珈琲が日本の金にして十錢だと思つて居りますと、二三十分經つて拂ふ時には、相場が變つて十錢のものが二十錢になると云ふやうに、天文學的な數字にマルクの値が下つて參つたのであります。私共の一ケ月に貰ふ金をマルクに計算致しますとゼロが十八附いて居ると云ふ樣な時代があつたのであります。斯樣に困難した時代が獨逸にあつたのであります。餘談でありますが其の當時の獨逸などから見ますと、今日の日本の如きは米が無いの何が無いのと云ふことを言つて居りますけれども、是は誠に恥かしい話であつて、何にも困つて居らぬと私は思ひます。

獨逸が困難のどん底にあつた時ストレーゼマンが何と申したか、「何が困つても獨逸は美術と發明は賣らぬ」と云ふ布令を外交部が出したのであります。其の時に今名古屋に居られます或る日本の大きな實業家がベルリンとハンブルグの間を往復されて、當時獨逸で初めて發明された空中から電氣を取る發明を日本から買ひに參つて居つたのであります。そして契約が殆ど出來まして手金まで授受が出來て居つた其の時「發明と美術は賣るべからず」と云ふ布令が出たのであります。此の「發明と美術は賣るべからず」といふ布令、之を思想的に見ますと非常な力を與へたのであります。獨逸は困つて居ると言はれて居る、實際インフレーション其の他物質方面では非常に困つて居る現象はあるけれ

ども、精神は腐つて居らぬ、獨逸の美術は民族の結晶である、民族の優越性の結晶である、何事があつても賣らぬ、發明と美術は獨逸民族が世界に立つて居る長所、世界に輝かしい長所である、此の二つは、どうしても賣らぬと云ふことを申したのであります。是が後になつてヒトラリズムとなつて出て參るのであり、獨逸民族性の勃興と云ふものの濫觴を爲したものであります。總て斯樣な精神を以てストレーゼマンはあの莫大な獨逸の賠償金千三百六十億マルクでございましたか、天文學的數字の大きな賠償金問題に對するドーズ案、ヤング案と云ふやうなものの中を縫ひつゝ、獨逸の國歩艱難を段々救つて參ると云ふ方向に向いて行つたのであります。私は千九百二十二年の秋ミュンヘンに旅行致しますと、丁度ヒトラーがルーデンドルフと一緒にミュンヘンであの大きな暴動を起した爲に牢獄に一週間ばかり繫がれて始めて出て參つた時でありました。其の時にヒトラーの申したことはどうであつたか、彼は「我をして十年の年月を藉せ、さすれば必らず獨逸はベルサイユ條約の桎梏を逃れて自由な强力な國民として再現して見せよう」と、申したのであります。其の時の言葉は私今でも忘れません。國民の力、此の民族的國民の力は出ないで居られるものか、必らず出て來る、それを今になつて聞けば當り前のことでありますが、千九百二十四年、先程申した如くベルサイユ條約の凡ゆる桎梏がありました上に、更にルール地方まで佛蘭西兵に占領されて居るといふ實に苦しい時代に於て既に左樣な宣言を致して居つたのであります。國民的の力、民族的の力と云ふものが所謂ヒトラリズム、今日のナチズム、獨逸の推進力となつて參つたものだと思ふのであります。獨逸の復興致して來た力と云ふものは勿論孜々として倦まざる國民の力が大きな原因をなしてゐるのであります。けれども、亦國民のリーダーが先に立つて民族的の力を叫び、「美術と發明は賣らず」と言つて世界に此の民族的優秀性を翳しつゝ戰つて參つたところの思

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

想戰の善導が獨逸の復興に大きな役割を持つたと云ふことは爭ふべからざる事實であると思ふのであります。

獨り獨逸ばかりではありません、英國の如きは、私は外務省へ入りまして一番先に參りましたのがロンドンでありますが、當時丁度ロイド・ジョージの內閣が出來て居つて、戰後の經營に第一歩を踏出して居つたのであります。ベルサイユ條約締結後のヨーロッパに對する英國苦心の政治が行はれようとする眞最中であつたことを思ひ出すのであります。私は色々な關係からバーナード・ショウと云ふ人と仲良くなりまして、色々な機會に彼に會つたのであります。其のバーナード・ショウは常に斯う言つて居る、「イギリス人と云ふものは大きな恐しい長所を有つて居る」と。彼は非常に皮肉な言ひ方をする人ですが、「自己を防衛せんが爲には、外には道德的に見える言ひ方をするのが上手だ。」と云ふことを申してイギリス人を諷して居つたのであります。言葉を換へて言ひますと、英國は主たる同盟國及び聯合國の中に入つて獨逸と戰ひ、ベルサイユ條約が出來てドイツが挫かれた形になると、今度は其の挫く力を當時非常に勃興して參つたフランス及びイタリーを挫く方に使つて來た、それに對する皮肉であります。英國は結局ヨーロッパに於ける自分の勢力の現狀維持と云ふことが目的である爲に、獨逸と戰つて戰爭に勝ちベルサイユ條約が出來ると、今度は獨逸は目標でない、寧ろ今まで仲間であつたフランス及びイタリーが餘りに力が大きくなることを防がなければならぬ、その爲に國際聯盟に非常に力を注ぎまして、其の間に國家の平等權を主張して、フランスの如きが大いに頭を出して來る事を防いだことに對する皮肉であります。又英國はヨーロッパ制覇に都合の良い自分の慾を辯護する爲に、國際聯盟主義を翳してフランスを掣肘しようとしました。バーナード・ショウが常にそれを揶揄して「英國人は自己の利益を守る爲には道義若しくは人道の美名に隱れる事がうまい」と、斯う申して居つたのであります。英國と云ふものは、要するに英帝國、世界に太陽の沒する處なき大英帝國、海外領土をも加へました英國の組織を如何にして平和に保つて行くか、如何にしてうまく持つて行くかといふことが常に念頭にあるのであります。私がロンドンに居ります間に、國際法竝びに外交史を習つた先生で、英國の有名な評論家でハロルド・ラスキーが（此の人はユダヤ人でありまして、世界に鞏くソーシャリストの學者であります）「國際聯盟と云ふものは、如何にもイギリスがフランスあたりに作らしたものであるけれども、あれは要するに英國の羈絆、英帝國の繫がりと云ふものを拵へたものである、詰り英帝國の連帶性と云ふものを英國の保障の下に作らしたのが國際聯盟主義である」と云ふことを申して居るのでございます。斯う云ふ點から考へますと、早い言葉で申せば宣傳でありますが、英國の思想的潛行戰、即ち表には出ずに潛行的に參ります思想的の工作と云ふことは實に巧妙に行はれて參つたことを感ずるのであります。大戰中の英國のやり方を見ますならば、タイムス、デーリー・メール等を以て世界の新聞王と言はれて居りましたノースクリフを歐洲大戰當時對獨宣傳省の頭に置いて、其の下には永い間ベルリンに於けるロンドン・タイムスの特派員となつて居り後同紙主紙となつたウィッカム・スティード、それから空想的な評論家であり、又作家でもあるH・G・ウェルズ此の二人を其の下に用ひまして大きな宣傳に乘出したのであります。此のノースクリフのやつた仕事と云ふものは、私は非常に大きな效果を擧げたものと思ふのであります。是は事實について見ましても幾多の效果が擧つて居るのであります。

要するに前回の歐洲大戰に於て英國のやつて參りましたことは第一は獨逸を倒すと云ふことでありましたが、之と劣らざる熱心と劣らざる確實性を以て成功致しました點は、ソリダリテイ・オブ・ブリテッシュ・エンパイア即ち大

英國の連帶性と云ふ事を確保致したことであります。斯く海外領土を國際聯盟の一國に當りますメンバーとして入れることに成功致しました。そして大英帝國と云ふ大きな繋がりを以て之を保つて行くと云ふことに成功しましたことは御承知の通りであります。之を以て見ても唯パンフレットを何百萬冊撒いたと云ふやうなことは別の意味に於て、英國の戰爭目的を達せしめたと云ふ役割に於てノースクリフなどのやつた仕事は非常に大きなものであると思ふのであります。

次に私は獨逸及び英吉利ばかりでなく、亞米利加のことに入らなければいけませんが、その前に、過去に於ても斯樣に思想戰の否むべからざる跡があるのでございますが、是が今日眼前に行はれて居りまする歐洲大戰に於て如何なることになつて居るかと云ふことを少し述べて見たいと思ふのであります。歐洲大戰が始りました去年の夏から今日迄の約六ケ月ばかりの跡を辿つて見ますと、前の大戰の時にも增して此の思想戰と云ふものが非常に大きな勢を出して參つて居るのであります。是は單にニュースを報道致して居ります色々な機關、或はラヂオであるとか、新聞雜誌等は申すに及ばず(左樣な細かいことに迄觸れる餘裕は持たないのでありますが)先程述べたノースクリフが前の大戰に於てやりました如き、大きな戰爭目的と云ふものに對して如何なる動きを示して居るかと云ふことを顧みて見たいと思ふのであります。

第一に、去年の四月獨逸が墺太利を併合致しました。九月に至つてミュンヘン會議が開かれまして ズデーテン地方(チェッコスロヴァキア)等の併合となつたのでありますが、それまでの間に於て英國はどうやつて居つたか。チェンバレンのやりました所謂融和政策、どうかして獨逸のやり方を融和して行かうと云ふ考へ方であつたのであります。

此のことは少し前に遡らなければいかぬのでありますが、元來英國は先程申した如く、歐羅巴に於けるバランス・オブ・パワー(勢力の均衡)と云ふ事を土臺にしてその 勢力を保つが爲にどう律して行つたら宜いかと云ふ事を常に考へて居る國であります。ところが獨逸が賠償問題、ドーズ案、ヤング案と云ふものを逃れて、段々勢力を增し、軍備と云ふものが出來て參つたのであります。獨逸の再軍備に對して一番に脅威を感ずるのは佛蘭西でありまして、佛蘭西は常に此の獨逸を防がう、防がうと努力致して居つたのであります。此の間に於て英國は矢張り佛蘭西だけを歐羅巴に於てのさばらしてはいかぬ、獨逸を助けて行かなければならぬといふので、獨逸の再軍備擴張と云ふことに對しては常に友情的な考へ方をして參つたのであります。そればかりでなく、御承知の如く獨逸は英國に對して英國海軍力の三割五分迄保有して宜しいと云ふ協定まで作るに至つたのであります。左樣な意味を以ちまして獨逸が非常に苦しんで參つた所謂ストレーゼマンの苦難時代からヒトラリズムの行はれました中間時代まで、獨逸と云ふものには矢張り一種の融和政策をやつて參つたのであります。當時の外務大臣サー・サミュエル・ホーア等は餘り獨逸に良過ぎたといふことで千九百三十五年イーデン外相に替りました。イーデンは常にヒトラーとやり合ひまして、獨逸に對する融和政策を段々狹め薄くして行かうと云ふ事をやりましたが、要するに英國は獨逸の勢力の伸びて來ることを或る程度に於てずつと認めて來たのであります。唯墺太利の併合となり、ズデーテンの問題となりチェッコスロヴァキアの併合となるに至つて、チェンバレンのやつて居ります政策が多少目立つて來たのであります。英國は獨逸の伸びる事に屈するのではないか知らんとさへ思はれたのであります。

去年の七月、先程申しましたハロルド・ラスキーがロンドン大學からワシントンに招聘されまして、「民主々義の裏

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

切者」と云ふ題でチェンバレンを頭からこき下した演説を致しました。其の時申したことは「斯うして居つてはチェンバレンはもう大英帝國を獨逸の爲に賣つて仕舞ふんだ。而して來るべき世界にはナチズムの獨裁政治と云ふものが出て參るであらう。是では大變である。此の形勢を放つて置くならば所謂世界のデモクラシーと云ふものが丸で潰れて仕舞ふであらう。デモクラシーの國の大きな代表者である貴方方米國人は玆に起ち上つて、英國が今決せんとする戰ひを引受けて、デモクラシーの爲に戰つて貰ひたい。」と云ふことを申したのであります。私はラスキーのことを度々申しますが、それは英國の此の次に採るべき政策に對して大きな役割を持つて居ると思ふからであります。此のラスキーの演説が濟むと(アメリカでは演説會があつて後其の演説の二倍程の時間を掛けて質問が始まるのですが)チェンバレン崇拜者である一人の熱心な新聞記者が立上つて「今ハロルド・ラスキーは非常にチェンバレンをこき下したのであるが、自分の見る處ではチェンバレン程の政治家は無いと思ふ。チェンバレンの明日やる事を知らないから、今チェンバレンのやつて居ることは民主々義を裏切るのだと云ふことを申すのであらう。明日行はれんとする彼の政策を見せてやらう。」と言つて、彼の申しましたことは「チェンバレンは大英帝國を背負つて立つて居るんだ、今ラスキーの言ふ所は單にデモクラシーだけを見て居る。大英帝國はデモクラシーを見て居るのぢやない、デモクラシーよりもつと大切なものは大英帝國の連帶性である、此の爲に戰つて居るんだ。」と云ふことを申したのであります。

私は此の質問者の質問を最も興味を以て見たのでございますが、此のことが戰爭が始まつてからどう動いたでありませうか。此のことは歐洲大戰の經過竝びに將來に對する非常な暗示を與へるものだと思ふのでございますが、チェンバレンが歐洲大戰に於て所謂獨逸に對して宣戰を致します時には何と申したでありませうか。「我々はナチズムと戰はなければならぬ」とは申しませんでした。「我々はナチ獨逸と戰はなければならぬ」とは申しません。「我々の戰はんとするものはヒトラリズムである」と、人の名前だけを出しました。是は大きな意味があると當時から思つたのであります。ところが十一月十八日のチェンバレンの演説に依ると此の戰爭目的がヒトラリズム打倒より少し變つて參つた、何と申したかと言ひますと、「我々は歐洲竝びに世界の平和の爲に戰ひつゝあるのである。此の平和を維持せんが爲には弱小國が虐げられて行くことを唯見て居る譯には行かない」と云ふことを申したのであります。更にそれが一月二十日リーズに於けるチェンバレン首相の演説を見ますと、興味津々たるものがあります。彼は「我々の戰爭目的は大英帝國の今日迄握り來たつた經濟覇權の維持である」と申したのであります。

最も明確に私が思ひ起します先程のワシントンに於ける一新聞記者の質問其のものが現れて參つたのでございます。斯うなつて參りますと、英國の狙つて居る所の戰爭目的と云ふものが實は變つて來たのではなくして、初めからさうである。其處が此の思想戰の言ひ表し方であつて、其の眼前の狀態に應ずるが如くうまく引摺つて行きますけれども、實際の眞目的は其處にあると云ふことを感ずるものであります。初めにはヒトラリズムと戰ふと云ひ、其の次には弱小國家群の擁護だと云ひ、さうして最後に大英帝國の經濟制覇權の確保に在りと申すに至つては、私は是は眞の本音を吐いたものだと思ふのであります。更に面白いことは戰時內閣の重要閣僚となつて居るイーデンが、「今の戰爭の目的は二つある。一つは餘りに英國の中には(金持とは申しませんが)貴族階級と然らざるものとの間に懸隔が出來て參つた、此の懸隔をどうにかして矯正して行かなければならぬ。今一つは(はつきりと申したのでありますが)所

謂大英帝國の連帶性を保ちたいが爲である。而もそれを解剖致しまして、大英帝國の連帶性を保たんが爲には三つの共通なものが必要である。一つは共通な元首を持つて居る、一つは共通な考へ方を持つて居る。更に今一つは共通な利害を持つて居る。此の三つの共通性を確保致すことがイギリスの今回の大戰の目的である。」と斷言致して居るのであります。英國の戰爭の目的と云ふものは、實は思想戰で始めから現はれて居るものは其の時々に應ずるうまい手を打つては居りますが、本當のことは其處に在るのであります。

先程私の申しましたバランス・オブ・パワー、勢力の均衡を保ち、而して此の英國の立場を保つ所の平和を推進めて行く力の爲に戰つて居るんだと云ふことを申して差支ない狀態であらうと思ふのであります。此の英國の思想戰の根本的な事情を眺めますと、英國と云ふものはどうもドクトリン、所謂主義であるとか或は考へ方、イデオロギーの爲の思想戰をやつて居らぬ、飽く迄實際的な現實に卽した政策を以てやつて來て居るのであります。只今申しました如く大英帝國の連帶性と云ふことを進めて行きますことは、誠に今の英國として必要なことであります。何故かと申しますと、御承知の如く今度の戰爭で愛蘭の如きは中立を宣言して居ります。南阿聯邦の一部には大戰に入ることはいかん、參戰不可論をも唱へられました。斯樣な意味に於て海外領土と英本國との連繫を保たせて行くと云ふことが重大な問題であります。故に之を眞向から戰爭目的の一つにして參つたと云ふことは面白い事象であらうと思ふのであります。斯うして見て參りますと、イデオロギーの爲ではない、寧ろ實際的に自分の國を如何に强くして行くかといふ大ビット以來變らない所の世界に於ける勢力の均衡を保つて、其の間を大英帝國が縫つて大きく生きて行かうと云ふことに苦心致して居るのであります。

さて亞米利加はどうでありませうか。次に私は亞米利加の問題に入りたいと思ひます。亞米利加は勿論デモクラシーの國ではございますが、先づ申上げなければならぬことは、先程から獨逸が如何に思想戰に於て大きな功績を殘したか、又英國はノースクリフ以來最近の成績を取つて見ても如何に大きな功績を殘したかと云ふことを申しましたが、更に米國の如きは大きな思想戰的な效果を擧げて居ると思ふのであります。元來此の國は建國約百五十年にしかならない若い國でありますが、國を興す時から一つの思想戰で來て居ると思ふのであります。一體亞米利加を見ますに「亞米利加は物質の國だ、あんなものは今に腐つて仕舞ふだらう」と云ふやうなことを申される方が多いのであります。私も參ります迄は左樣な考へ方を致して居つたのであります。成る程亞米利加は誠に物質的な點があるのであります。譬へて見ますならば、或る英國の友達がワシントンに私を訪ねて參りまして「初めて亞米利加に遊んだ、亞米利加人も元は英國人であるが、どうも亞米利加人と一緒に旅行して來て實に愛想が盡きたよ」と、斯う申すのであります。方々を遊覽バスに乘つて見物に廻り、ナイヤガラ瀑布なども見物した。瀑布に行つた時に（皆樣も御存知の通り實に大きな瀧であります。其の友人の英國人は實に雄大な見事なものであると眺めて居ると）一緒に居つた亞米利加人はどん〳〵先に立つて進んで、『こちらに來なさい』と言ふ。あすこには結婚後よく旅行に行く所がありますが、ハネムーン・ブリッヂと云ふ大きな橋が架つて居る。此の橋は先達つて降雨量が多かつたので流されたと云ふ話でありますが、此の橋を米國人が指して何と言つたか、『此の橋は三百萬弗掛かつた』と、斯ういふ話をした。其の英國人としては瀧の美しさを褒めたかつたんだけれども、自分を案內して居る米國人は此の橋を見せて三百萬弗費つた、詰り百萬弗以上のものでなければ問題にならぬと思つて居る。「實に亞米利加人は嫌になつたよ。」と云ふ事を申して居

つたのであります。

是は私も同感でありまして米國人は誠に物質的である。私はある時デトロイトの郊外に在るフォードの自動車工場へ參りまして、一番先に驚いたことは、あの厖大な工場が實に良く掃除が行屆いて居る、一點の塵もないことであります。之を私は褒めたのでありますが、私を其處に案内した所の重役の一人は、其の塵のないなどといふことには一向お構ひなしで、此の建物は何百萬弗であるといふ話を致して居つたのであります。寧ろ私の驚きましたことは一日六弗かの日給を拂はれて居る掃除夫だけが六千人あの工場の中に働いて居ると云ふ事を聞きまして、如何に掃除が行屆いて居るかと云ふこと、之を以てフォード工場の精密さと、如何に能率が大きいであらうといふことを想像致したのであります。亞米利加人といふものは多く金の掛かつたと云ふことを說明致しまして、先程の英國人の言ふ如く實に物質的な見方を致すのであります。然らば亞米利加は物質だけかと云ふことに立返るのでありますが、私は隨分演說會などに招かれて各大學も訪問し、色々な所も歩きましたが、勿論物質的でもございますが、其の間に一貫した一つの精神があるのであります。何と申しても千六百二十年にマサチューセッツ所謂ニューイングランドのプリマスと云ふ港に參つたパイオニヤー達——揑ね清教徒でありますが、ピューリタン・パイオニヤーがヨーロッパに於ける宗教の墮落、社會の腐敗に愛想をつかして新らしい天地を作つて行かうと云ふ意氣込が、今日なほ開拓者の精神として殘つて居り、それが今の所謂デモクラシーであります。腐つた世界、つまり歐洲の天地から去つて名實共に新らしい米國にやつて來て、人民の自由・平等・友愛、此の三つの主義の下に新らしい國家を樹てた。是がデモクラシーである。此の信念の下に生れてきて居ると言はねばならぬと思ふのであります。ですから亞米利加

人に言はせれば、一にもデモクラシー、二にもデモクラシーであります。矢張り此の氣持が根本になりまして、今日の亞米利加合衆國と云ふものが出來て來たのであります。

ところで一體デモクラシーとは何ぞやと云ふ問題であります。亞米利加の友人と此の點は非常に議論を致したのでありますが、亞米利加人に言はせると、憲法の何條かを出して是は自由である、是は平等であるなどと申します。私は揶揄するのではありませんけれども、亞米利加人に向つて常に斯樣な暴言を吐いたのであります。名前はデモクラシーであるが、四年毎に大統領の改選がある、其の當選の爲の戰は非常に自由に戰はれるが、例へばルーズベルト大統領が當選される、さうしてやることは專制國家にも劣らざる獨裁的政治が行はれるぢやないか。例へばニューディールなどと云ふ政策(新規蒔直しと譯して宜いかも知れませんが)は前のフーバー大統領時代の不景氣を直して行かう、景氣を付けて行かう、言ひ換へれば澤山の國債を發行して失業者を救はんが爲に事業を國家が拵へて行く、事業を拵へるのは造作ない話であつて、まだ使へる商工省、農務省と云ふやうな建物をどん〳〵潰して、新らしい建物を拵へる、その爲に多額の金がばら撒かれるから、失業者がどん〳〵減つて行く、又失業者には色々な失業手當を放漫に與へました爲に失業者間にありました不平と云ふものはなくなつて行く。此の爲にジョージ・ワシントン以來フーバーに至る迄過去百四十年に亙る國債は僅か二百六十億しかなかつたのが、ルーズベルトの政治が行はれましてから七年間で四百六十億の國債になつた。言ひ換へれば過去百數十年間の倍にも當るやうな國債を出して、新規蒔直しの政策をやつたんぢやないか、是はをかしいぢやないか。殆ど世界の何れの國もが國債を減らすのに非常に苦勞をして居るが、それと反對のことをルーズベルト大統領はやつて居るぢやないか、斯う申したのであります。要するに學者が申し

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

まするヂェファソニアン・デモクラシー――大統領であつたヂェファソンがやつて居つたやうな政策――が何時の間にか消えまして、どん〳〵新らしい意味に於ける政治が行はれつゝあるのであります。此の狀況から見ますると、實はデモクラシーと申しますが、內容は非常に變つて來て居ります。アメリカが國際政治として最も力を入れて居りますことは二つあると思ひます。一つは南北兩米大陸に對するデモクラシーであつて、兩米大陸を一體と致しましてデモクラシーの一つの陣營とすることです。之が段々進んで參りまして、千九百三十八年十二月リマに於て開かれました全米會議に於きましては、兩米大陸共同防衛案、北米南米諸國を全部合して共同防衛しようぢやないか、言ひ換へれば陸海軍を共同にして防衛をしようぢやないかといふ案迄出したのであります。是は一部の國が贊成して、大體出來掛かる所迄參つたのでありますが、アルゼンチンが反對を唱へて成立には至りませんでしたけれども、それに當ります色々な主義は矢張り今日行はれて居るのであります。是が一つ、今一つは先程から申しました亞米利加の信じて居るデモクラシー、其の民主主義の中に立籠つて獨裁國家、獨裁政治を破つて行かうと云ふことが、第二の目標であります。それですから亞米利加の思想戰的の根據と云ふものは極めて簡單で一本であります。「我々はデモクラシーの爲に起つ、世界はデモクラシーの爲に起つことが必要である、何故なればデモクラシーの國のみが各個人の自由を尊び、各個人の生活を安易ならしむるものである」と云ふことを申して居るのであります。

此のデモクラシーの爲に戰ふと云ふ見解の下にルーズベルトが宣傳を始めたのでありますが、玆で私は亞米利加の宣傳の方式について聊か述べて見たいと思ふのであります。米國の宣傳のやり方と云ふものは、私は誠に手輕で且つ徹底したやり方であると思ふのであります。元來が御承知の如く共和黨と民主黨と云ふ二大政黨で以て憲政が行はれて居るのでありますが、此の各黨派の間にも宣傳の方式を持つて居る。亞米利加の宣傳は寧ろ政治の形式から致しまして當然の結果でありますが、外に對すると同樣に內に對する宣傳が非常に必要なのであります。前のヨーロッパ大戰の時の大統領ウイルソンの時から始めたことでありますが、米國の元首である大統領が眞先に此の思想戰の第一線に出て宣傳に當ると云ふ仕組が出來たのであります。其の後ハーデングの時に至ります迄、事務が非常に繁忙になつた爲に一時止めて居りましたが、ハーデング大統領になつて又再興致しまして、今度のルーズベルト大統領の如きは非常な勢で之を始めたのであります。ホワイト・ハウス、白堊館――大統領の居りまする――の組織からして思想戰的に出來て居るのであります。此の白堊館の中には新聞記者室と言ふものが出來て居るのでありまして、非常に由緒のある部屋になつてしまつたのであります。テオドル・ルーズベルトが大統領であつた時分には、此の白堊館と云ふものは新聞記者出入禁止の館でありました。然るに其の白堊館に出入する所の人は勿論大きな政治家、實業家でありますが、是等の人の特種を取る爲にワシントン・スターの一新聞記者が一日テオドル・ルーズベルト時代に白堊館の門前に立つて居つて、其處を出入する訪問客を片端から捕へて特種を取りました。それで他の新聞記者も爭つて門前に集り出入する者の檢査をするやうにして種を集めました。是では大變であるといふのでテオドル・ルーズベルト時代にプレス・ルーム、新聞記者室を拵へて行かうと云ふので白堊館の新聞記者控室と云ふものが出來たのであります。それ以來段々それが本據となつて、ホワイト・ハウスの新聞記者控室と云ふのが今日の世界に對する思想戰の本據となるに至つたのであります。

今では大統領自から一週間に二回新聞記者と會見を致すのであります。さうして白堊館がそんな仕組になつて居り

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ますから、白堊館の中に居ります大統領の祕書官の中に一人は必らず新聞記者出身の者を充てて居ります。今はステイーヴン・アーリーと云ふ者がやつて居りますが、彼はルーズベルトが大統領となると同時に祕書官となつて所謂社交掛りの方をやつて居ります。此の人は常に新聞記者との往來の衝に當り、新らしい新聞記者を紹介するといふやうなことをして居ります。例へば日本から新聞記者關係の人が參ると、大使館に居ります私共が之をアーリーに掛合つて、朝日新聞社の斯う〳〵云ふ特派員が來たから大統領の會見に入れて呉れないかと交渉する、さう云ふやうな仕組になつて居ります。此の新聞記者會見と云ふものは誠に面白い、其の中でニュースを出すのは面白い仕組になつて居ります。一體此の大統領が一週間二回の新聞記者會見で話しますことは何でも載せて宜いと云ふ譯ではありません、四つの分類があつて、一つは大統領の許可のあるものに限つて大統領の言明として發表しても宜しい。第二は此の會談内容は盛んに記者から質問を出して大統領がどん〳〵答へるのでありますが、其の會談の内容を直接ではなく間接の書方なら載せても宜しい。第三は新聞記者が事件に對する參考として問題の内幕を語るものであると云ふので大統領の話を書いても宜しい。第四の部類は是は全然禁止すると云ふ諒解の下に全く祕密なものとして話されるもの、此の四つの部類があります。是は後から判るもので、其處について居るアーリー祕書官が後から部類を分けるのであつて、大統領は實に自由に答辯を致すのであります。それが一週間に二回ありますが、一國の元首が思想戰の最前戰に立つて一週間に二回やるのであります。

而もワシントンと云ふ所は新聞記者の生活にとつては變つた大きな所で、私はロンドンに居りました時もロンドンの新聞記者會と云ふものは實に大きなものであると云ふことに驚いたのでありますが、此のワシントンに較べれば比較になりません。ワシントンには約五百名の新聞記者が集つて居り、始終新聞記者會見に出て居るのであります。亞米利加では議會は上下兩院であるが、それに對して此の約五百名の新聞記者團を第三院であると云ふやうなことを申しまして、議會の名簿の一番お終ひに新聞記者五百名の名前と經歴一切が出て居ります。詰り兩院議員に匹敵するやうな待遇を與へられて居るのであります。此の五百名の中には外國から來て居る者が三分の一、後の三分の二と云ふものは四十八州の各地から集つて居るのであります。斯う云ふものが兎に角一週二回大統領に會見するのですが、今のルーズベルト大統領の如きは誠に率直にはつきりと物を申すのでありまして、而も知らず識らずの間に惹付けられてしまふのであります。

此のルーズベルトと云ふ人の人柄は何と申すか、亞米利加ではデモクラシーといふものと、大統領業といふものに一番大切なものは演說であらうと思ひますが、ルーズベルトの演說は實に堂に入つたものであります。横の方にラヂオなんかを据付けて非常にゆつくりと、「あのね…」と云ふやうな調子で政治を話して居つて、さうして民主黨の政治にすつかり捲上げて仕舞ふ。一寸餘談になりましたが、如何に此のルーズベルトと云ふ人は大統領業に適して居るかと云ふことを證明する材料は斯う云ふことであります。私の非常に懇意に致して居ります今の上院議員の中で一番若いホルトが民主黨の中にも非常にあるのであります。此の人程敵を持つて居る人はないと言はれて居ります。敵といふ人が居りますが、此の人も非常に雄辯家であつて、ルーズベルト攻擊演說を續け樣に六時間もやつたことがある。それが同じ民主黨の議員であり、又實に口汚いことを言つて彌次るのでありますが、自分の黨派の大統領を六時間も續け樣に攻擊致しました。其の晩私は飯を一緒に食つたのでありますが、斯ういふことを言つて居る。「政敵と

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

してはあのルーズベルトと云ふのは嫌ひで今日も六時間程攻撃演説をやつた、併しながら亞米利加の大統領の中で、今までの偉い人を數へ上げろと言はれゝば、先づ亞米利加建國の父ジョージ・ワシントン、それからデモクラシーの開祖であるヂェファソン、それから南北戰爭の直後奴隷解放を叫んだエブラハム・リンカーン、是はもう爭へぬことである。其の次にはルーズベルトである。」といふやうなことを申して居るのであります。此の一事は實に彼の全貌を餘す處なく窺はしめるものだと思ひます。それから今閣僚の一員であるジェームス・ファーレー、日本で言ふ逓信大臣に當る人がルーズベルトの傳記見たいなものを書いて居りますが、其の中で口を極めて大統領業としての適任者であると云ふことを言つて居るのであります。亞米利加で大統領を二回以上やつた人は歴史上未だ曾てない。ワシントンと雖も三回目には御斷りを申上げた。然るに今度のルーズベルトは二回出てまだ三回目の當選を狙つて居ると言はれて居る。私は必らずやるだらうと思ひます。處が反對黨である共和黨の幹事長をやつて居るジョン・ハミルトンが斯う云ふことを申して居ります。「今までの統計から言ふと大統領改選の前年の十一月には所謂中間選擧と云ふものが行はれ、上院議員は三分の一が改選される。一昨年十一月に行はれた右改選の結果に依りますると、民主黨の方が大敗して共和黨は三割七分殖えた、斯う云ふ統計になつて居る。今までの大統領の選擧に殘した記錄を探つて行くと右改選に、反對黨の二割以上浮上つた時は、必らず其の反對黨が次の大統領を出すのである。今度は中間選擧で共和黨は三割七分盛返して居るのだから、必らずや次の大統領は共和黨から出ることは統計的に決まつて居る。」と、斯う申すのであります。更に附加へて、「然し、此の民主黨から今のルーズベルト大統領が名乘りを擧げて來るならば番狂はせになるだらう。何故ならばルーズベルトと云ふ人には實は齒が立たない。大統領役者としての適任者である。

實に人を惹付けるものを持つて居る。」といふことを申して居るのであります。斯樣な意味をもちまして、此のルーズベルト大統領と云ふものは、どうもまた出て來るであらうと云ふことが思はれるのであります。

そこで此のルーズベルトは一體何を狙つて居るのであらうかといふことであります。先程も申しました如く亞米利加の最も大きなプリンシプルである、デモクラシーの上に於て、私の忘れることの出來ないことは思想戰の第一の槍玉に最近擧げられたのが日本であることであります。千九百三十七年蘆溝橋事件が起りまして三月後の十月五日シカゴに於てルーズベルト大統領のやつたあの演說と云ふものが極めて典型的な亞米利加の思想戰の型であります。大統領は正面から日本とは申しませんが、次のやうな意味を言外に諷して居ります。卽ち我が亞米利加はデモクラシーの國である。從つてアグレッサー卽ち獨裁主義者に依る所の侵略主義には反對しなければならぬ、かるが故に日本が今支那に於て採つて居る行動に對しては全面的に反對すべきである。其の爲には獨裁主義國である日本を隔離すべし。斯樣なことで日本を第一に思想戰的にデモクラシーの反對の國であると云ふ意味で槍玉に擧げて居る次第であります。斯う云ふことは實に面白いことであると共に恐しいものだと思ふのであります。我が亞米利加はデモクラシーの國である、日本は侵略主義國家である。聽いてる方でもさう決めて仕舞ふのです。私が亞米利加のノース・カロライナ・ユニバシティと云ふ大きな大學に演說に招かれて參りました時に、話が終つてから第一の質問は斯うであつた。亞米利加はデモクラシーである、又アメリカはリパブリックである。日本はオートクラシーである、リパブリックでない。而して今お前は支那問題を話したが、お前達の戰つて居る所の支那はデモクラシーの國であり、リパブリックである。卽ち支那と云ふものは我が米國のシスター・リパブリックである。それを君の國が虐めるから、君の國はひどいと

言ふ。其の時に私は一つ笑はしてやらうと思つて、成る程貴方の言はれる通り支那は貴方の國のシスター・リパブリックでありませう。何故支那はシスター・リパブリックだといふことを肯定するかといふと、支那は本當にリパブリックのシステムを持つて居る、共和國であるからと云ふのでなくして、支那を現在統治して居る者は、男性である蔣介石でなくして、女性である宋美齢夫人であるからシスター・リパブリックである（笑聲）と云つて笑はした事があります。どうも思想戰的に申せばさう云ふやうなことに植付けられて居る。何處へ參りましても日本と云ふものはデモクラシーでない、アグレッサーである、從つて惡い、斯う言ふのであります。

茲で私は非常に深刻に思はざるを得ないことがあるのであります。日本は宣傳下手で困るといふことを能く言はれるのでありますが、日本居留民の人にすら外務省の宣傳は駄目だと言はれる。何處へ行つても日本はいかん、支那は善いと言はれる。併し此の思想戰と云ふものの恐しさは、デモクラシーは宜しい、アグレッサーは駄目であるといふ亞米利加の大きな宣傳的稍妻に掛つて居りますと、後からさうでないぞと言つてもなか〳〵聞えないものであります。一度あれは泥棒だと言はれると、俺は泥棒ぢやないと言つても中々聞かれない。あれは泥棒だと言はれて泥棒でないと言ふ代りに、言つた者を彼は人殺しだよと言つた方が聞えが宜いと云ふことを申すのでありますが、殊に亞米利加の如く初めから有つて居る先入主的なデモクラシー一點張の、思想戰イデオロギーで來られましては仲々大變で、亞米利加は支那に同情すると云ふことは初めから決まつて居る。此のことについて申上げたい一つの事例があるのであります。どうも亞米利加といふ國は弱い國に對して同情をする、負ける者に對して同情すると云ふ傾向が非常に濃厚な方でありますから、何でも支那のやることは宜いといふやうに申して居るのであります。

此のことは日支事變に於ける支那のみならず、最近はソヴィエトがフィンランドに押寄せて行つて居ります。從來ソヴィエト・ロシアに對しては餘り良い感じは持つて居りませんでしたけれども、最近フィンランド問題が起つてから急激に惡い感じを持つやうになつて參りました。是は卽ち同じ心理狀態で、ソヴィエトが弱小國フィンランドに乘込むと云ふので、最近フィンランドに對して武器輸出など致して居りますが、我々の入手致して居ります情報に依りますると、亞米利加の海軍が使ふことになつて居つた武器を分けてフィンランドへ送ると云ふことになつて居ります。又一國に關して二千萬ドルを限度とする借款を許して宜いと云ふ法案が論議されて居りますが、是はフィンランドを狙つて出したものであります。

更に逆に申せば、亞米利加は此の際ソヴィエト・ロシアと國交を斷絶すべきであると、左樣な決議案がヴアンデンバーグから出された、是は面白いことであります。

ソヴィエト・ロシアと國交を斷絶すべし、國交斷絶し難き事情があるならば國務長官から說明を求めると云ふので、國務長官が自から出て說明を致して居ります。是は思想上の問題としては色々あるけれども、今の處、政治上の問題としてソヴィエトと國交斷絶する必要はない、と云ふことを申したのでありますが、次に其の決議案と變つたもう一つの決議案がある。亞米利加はエゲツない議案を出すのでありまして、さういふ決議が通らないと、今度はソヴィエト・ロシアに行つて居る大使の俸給を削つちまへ、大使の俸給を削つてしまへばソヴィエトに居れなくなると云ふのでさういふ案を出したのであります。恐しいものでありまして、百八對百五票で案は通らなかつたが、如何に亞米利加のソヴィエト・ロシアに對する感情が惡いかと云ふことが分るのであります。勿論是は思想的にも惡いのであります。

一體亞米利加は共產黨をそんなに嫌つて居るかと云ふことでありますが、實は私共が常に亞米利加の大學や倶樂部等に參つて、日本は防共の爲に戰つて居る、支那に於ける日本軍の行動は世界人類共同の敵であるコミンテルンに對する爆擊であるといふやうなことを申しますと、何時も質問が出て來る。君はさう云ふが、勿論コンミュニズムと云ふものはバチルスである、黴菌の怖い奴は體の弱い奴である、空氣中には必らず黴菌は幾らでも充滿して居る、君の國は黴菌が恐しいと云ふことは、君の國のコンステチューションが黴菌に堪へないからだ、亞米利加は强壯だからコンミュニズムなんか何時でも拋つて置いてあると云ふやうなことを言つて居る。其の爲に亞米利加には共產黨と云ふものが組織されて居る。共產黨が發行致して居ります文獻が多々あります。

アメリカの大きな勞働運動の歷史は御承知の通りあの勞働運動の第一が故ゴンパースと云ふ有名な人が拵へました勞働總同盟と云ふものが一つ、最近自動車とか機械工業とか炭抗とかの勞働者が前記同盟より分れて結成致しましたのが、產業別勞働組合評議會（C. I. O）であります。（C. I. O の頭はジョン・ルイスと云ふ面白い男でありますが、此のジョン・ルイス配下の評議會には一時相當共產黨的色彩も認められた。千九百三十七年の如きは之が罷業をやりまして、罷業に二つの戰術をやつた。一つは坐り込みストライキをやつてどうしても動かない。爲に暴行を働いた者もあつて、遂に兵隊を出動さして治安の維持に努めたと云ふ所もあつたのであります。（C. I. O と云ふのはどうも危險思想でいかぬと言はれて居りますが、ジョン・ルイスは政界にも力を伸ばすと共に、社交界に於ても堂々と活躍して居る。アメリカの議會の中にダイス・コミテイと云ふものがありまして非アメリカ的な思想の調査や取締をして居りますが、是が又矢張り思想戰の大きな行き方だと思ひます。アメリカニズム、卽ち民主々義デモクラシーを元とするアメリカ主義と云ふものを立てゝ行かなければならぬと云ふのが、アメリカの行政部內のみならず民間を通じての氣分であります。アメリカニズムに反する思想を有つて居る者を摘發して、斯う云ふ者を社會のバチルスとして擧げて行かうと云ふので、其の槍玉に擧りましたのがジョン・ルイスであります。ジョン・ルイスは呼び出されまして「お前は一體共產主義を信ずるのか」と訊されると、ルイスは痛快な男で「勿論だ、自分は第三インターナショナルとも非常な關係を有つて居る」と言つたとも傳へられた。是はもうアメリカの非常な脅威となりました。「けれども金は總一文貰つて居やせんぞ、米國人は信教の自由があるぢやないか、況んや思想の自由はあるぢやないか、我々がインターナショナルと關係を有つて何故惡い。」斯う云ふ國柄であります。是が新聞の大きな面に出たのでありますが、之を別段辯次る論文が出る譯でもないのであります。「ジョン・ルイスは實に勇敢ぢやないか」と極めて明確に言つて居る。「インターナショナルに關係があつて何故惡いかと言ふのが實に豪膽ぢやないか」と褒める方の論者があつたのであります。さうして見ますと、此のアメリカに對する日支問題の宣傳と云ふものは實にむづかしいものであります。

それから一つ面白い話を申上げますが、私達は色々な事をやつて見ました。日本の支那に於て採つて居る行動は自衞行動であると言ひますと、或る時の演說會で「一體其の自衞行動をするのに、人の國まで行つて自衞行動を採るとは何ぞや。自衞行動は自分の國でやることであつて、支那と云ふのは君の國ぢやない、自衞行動とは聞えない。況んや防共だと言ふ。モスクワに御出掛けになつたらどうか。弱い國に行つて防共と云ふのは可笑しいぢやないか」と、二十五分間演說して三時間質問されたことがあります。左樣なことがアメリカの行き方であります。パネイ號事件が

起つた時であります。千九百三十七年十二月十二日でありますが、カナダの國境に近いデトロイト市のエコノミツクの倶樂部に招かれまして、「日本の支那に於ける目的」と云ふ題で話を致すことになつて居りました。私は無論此のパネイ號事件を知る由も無い。其の朝主催者であるクラブの會長が突然私のホテルへ參り「今日の演說會は無期延期して貰ひたい。今朝から既に三回ばかり電話があつて、アメリカの軍艦パネイ號が沈沒された、其の國の代表者の話を聽くなどと云ふのはどうかと思ふ、今日の所は怺へて呉れんか」と言ふ。そこで私は「貴方が聽いて呉れますか」といふと「私は主催者だから聽く」「それは結構だ、一人で結構だ、今日やりませう」と云ふ譯で此の會長のドクター・クローは苦勞を致したのであります(笑聲)。其處で其の會場に行きまして矢張り自衛行動の話を致したのであります。日本の支那に於ける行動は自衛行動なりと云ふ話を致したのであります。話が終りましてから直ぐに顏の青ざめた、興奮して立上つた立派な紳士がございましたが(其の質問者はクライスラー自動車會社重役である)、それが立上りまして、私に斯樣な質問を致しました。「君は一體無禮ぢやないか、此のパネイ號事件のあつた日に、此の事件について一言も觸れないぢやないか、何たる事か。」實は來る朝新聞記者との會見がありまして、その時に私は面白い譯でありますが、私は何もパネイ號事件を知らないのであります。其の朝二十人ばかりの新聞記者が私の處へやつて來まして、新聞の號外の日本の盲爆と云ふ樣なものを見せて、「是はお前どう思ふ」「どう思ふにも私は數日前にワシントンを出發してゐるのだから全くその事情はわからない、然し若しこのニュースが本當だとするならば是は絕對に故意でなく戰爭中に避け難い何かの間違であつたらう」と私ははつきり申しました。しかもパネイ號の上にパツキストンとアチソンと云ふ二人の大使館員が乘つて居りました。此の二人とも南京に居ります當時に知つて居つたものですから「自分はパツキストン及びアチソンの二人の親友だつた、その二人が此の事件で負傷したのを遺憾に思ふ」と言ひました。彼等は滿足したかしないか知りませんが、「此の號外の寫眞を見るまで分らなかつたのはいかんぢやないか、もつと沈痛な顏をして話をしろ、今パネイ號事件について何も言はぬのは怪しからんぢやないか」其處で私は物柔かにアチソンとパツキストンの話をして、自分は氣の毒に堪へないと言ふと、なほもいきり立つて「君の話を聽いて居ると、日本の對支行動は自衛行動なりと言つたが、果して然らば今度のパネイ號事件も起つた事であるから、アメリカの一個大隊を君の國の横濱なり神戸に上陸さして自衛行動を執つたらどうか」「一個大隊なら結構でございます。一個師團でも宜しい、十箇師團でも宜しい、束になつて來たら一人殘らず殺して見せます」と言つたら拍手をするのであります。

私は申上げたいのでありますが、アメリカの思想戰と云ふものは只今申上げましたことによつて明らかであります如く、イデオロギーで來て居るのであります。間違つて居らうと居るまいとデモクラシー一點張りであります。茲がイギリスとその行き方が違ふところで、イギリスは先程申しました如く、實際的立場から別に主義とか思想と云ふものを出して來ないのでありますが、アメリカは初めから此のデモクラシーと云ふやうな思想一點張でやつて來る。而も思想一點張りで來まして、それ以外のことは聞かぬと云ふやうな考へ方を致して居るのであります。

次で觸れなければならぬことは、一體アメリカの思想宣傳的考へを有つて居るルーズベルトは何を考へつゝあるかと云ふことであります。先程申しました如く、內政的には新規蒔直しのニューディールの政策を實行して參つたのでありますが、若し私の考へる如くルーズベルトが第三期當選をも狙つて、又政府を組織致すことでありますならば、

必らずや今度は國際的に大きな事をしようとして居るのではないかと思ふのであります。言ひ換へれば今度出たらルーズベルトの夢は、今までは國内側に於けるニューディールを試みたのでありますが、今度は國際的のインターナショナル・ニューディールと云ふものをやらうと云ふのではないかと思ひます。アメリカの持つて居る思想戰の根據は、デモクラシーを基とする世界を作つて見せようと云ふ考へ方を以て、世界の平和運動に乗出すのではないかと思ふのであります。

其處で最近の出來事として面白いことは、去る二月十七日にニューヨークをイタリーのレッキス號と云ふ船で發ちました米國の國務次官ウェルズが、ヨーロッパに派遣されたと云ふことであります。是は何の爲に派遣されたか、此の派遣につきまして大統領は新聞記者との會見に於て「あれは何のことはない、今ヨーロッパに於ける情勢は色々な大使が居つて見て居る譯であるけれども、一人が行つて系統的に見て來ることが又面白い譯であるから、見て來た報告は自分竝に國務長官にするのである。誰も隨員などは連れて行かない、君簡單なものだよ」と云ふやうな話振りであつたのであります。然るに十七日發つた所を見ますと、此の國務次官には隨員が無いと言つたが、隨員も從つて行つた。其の隨員も普通の祕書官ではなくして、歐洲局長モファットをやつて居ります。この人は國務省切つての優秀なる歐洲通でございます。偶然かも知れませんが、去年の十二月ニューヨーク鋼鐵會社の親玉でありましたテーラーと云ふ人がアメリカからローマ法王廳に送られる使節となつたのでございますが、此の使節が、此のレッキス號に乗船を致して居るのであります。テーラーを何故に派遣したか、又更に何が故に今になつて、殊更に斯樣な使節を送るのか、是には色々なことがございませうが、私共が揣摩臆測を致すことは避けませう。けれども、私共の得て居りますす確實なる情報に依りますと、是は今アメリカからイギリスに行つて居る大使にケネデーと云ふ人が居る。元來はアメリカの船會社の大親玉でありましたが、非常な曲者でありまして、アメリカでは大使と云ふのは、黨の費用に寄附をした額によつて決まる。格によつて値段が違ひますが、日本の大使なんか誰も買手が無い、是はむづかしいからでもありませう。投資する額によつて競賣りが始まる、アメリカに致しましてはイギリスに參ります大使が一番高いさうであります。ケネデーは十八萬ドル寄附を致しまして大使になつたさうであります。左樣な優秀な腕利きのケネデーがロンドンに參りまして色々な歐洲の情勢を見ました上、どうも平和が出來さうである。出來るならばローマ法王廳から手を著けた方が宜いと云ふ樣なことで急激にケネデーの申出に依つて、實現したのがテーラー派遣實現の經過であるさうであります。さう致しますと、ウェルズ次官が一緒に參つたことは偶然でありませうが、是は注意すべき事柄であります。而も私共の知つて居ります所に依ると、此のウェルズは極めて重要な意味をもちまして、先づイタリーに行つてムツソリーニ首相及びチアノ外相に會見することの手筈もすつかり出來て居るさうであります。其の中にまあ獨逸に行つてヒトラー及びリツベントロップ、ゲツベルス などにも會ひ、イギリスに參りましてはチエンバレン、ハリハツクス、フランスに行つてはダラディエと云ふ樣な人に會つて語ることになつて居ります。此の間何を申出るか勿論分りませぬ。假に何もないと致しましても、前の世界大戰の時にウイルソン大統領がカーネル・ハウス大佐をそれこそ漫然とヨーロッパに派遣致しました所が、其のカーネル・ハウスが參りまして直ぐ出來上つたのが、アメリカがヨーロッパ大戰後の處置案として出しましたあの有名な十四ヶ條であることは、最近出版された大きなメモアールの中にも書いてあります。斯樣な點から見ましても彼がヨーロッパに參ります此の使こそは只事ではないだ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

らうとも思はれるのであります。殊にウェルズが參つても何をやるかと云ふやうなことは勿論判らぬのでございます。

そこで私の先程のことに立返つて申上げたいことは、最近の英米問題の推移でございます。どう致しましてもアメリカとイギリスとの關係と云ふものは、是は餘程ヨーロッパのみならず世界の大局に於て相當大きな役割を持つて居ると思ふのであります。此の英米關係と云ふものは最近餘程變つて來て居ると申さなければなりませぬ。言ひ換へれは英國と米國とは同文同種である。總て利害關係も大體現狀維持的のものとして相通ずる、斯う思ふのであります。卽ち此の兩國と云ふものは別に協定など結びませぬでも、大體に於て同じことを考へて居ると言つても宜いでありませう。最近米國に對して英國が非常に氣兼ねをするばかりでなく、今の言葉で申しますと、英國の對米媚態外交と云ふものが極めて顯著でございます。去年の三月十九日ワシントンに於きまして御承知の如く大統領が祕密會議の名前で、上院の陸軍委員を白堊館に招待致しまして國防問題を論議致したことがあつたのであります。國防問題を論議した時に「亞米利加の國境はラインにあり」、大統領は斯う申したと云ふことが報告されて居ります。一體そんな事を言つたのか言はないのか大問題を起したのでありますが、大統領の話として出すことの出來ないものが四つの中三つある。其の中の一つに入つて居るものが、大統領が言つたと書いたので、大統領が其の翌日の二十日にステートメントを出しまして「米國の國境はライン河にあり」と言つたことを新聞に報道して居るが、それは爲にする所ある報道で全く嘘である。斯うはつきり申したのでありますが、斯う云ふ內政上に於ける思想戰は實に華々しいのでありまして、是は新聞は一言も書けない、大統領が言つたといふことを言はない諒解の下に話をしてありますから、其の點でも取消しが出來ない、有耶無耶にしてしまひました。然し私が確聞致しました所では確かに大統領が申した。其の後に此のミリタリー・コミッテーと云ふか陸軍關係の人が何故祕密會に呼ばれたかと申しますと、日本に對する英米海軍の祕密申合がありや否やと云ふ樣なことで、今も爭つて居りますが、去年も同樣に爭つたのであります。あゝ云ふ風に爭ひになることは、英米に祕密協定があるのではないかと思ふのであります。下院議員のヒンターと云ふ人の質問に捲起された波紋で祕密會議が結局此の英米關係の問題で開かれ、其の席で「アメリカの國境はライン河にあり」と言つたのです。之を見ても分ります通り、アメリカは英佛を助ける爲には戰爭に參加をいとはぬと云ふ意味を表して貰ひたいと云ふことを、再三イギリスが申込んで居ると云ふことだけは私は想像出來るのであります。

此の時に執りました英國の對米媚態外交の節々につきまして、是は實に疑はしいと思ふ顯著なものを一つ申上げて見ませう。英國人の私の親友でワシントンに永く居つて、大使以上に尊敬されて居る人がありますが、其の人が「どうも大英帝國には驚いた、是程アメリカにおべつかを使はなければならぬか」と言つて卓を叩いて私に憤慨して居るのであります。更に驚いたことは英皇帝ジョージ陛下、クイーン・エリザベスの兩陛下が來米されてワシントンを訪問相成つたことであります。是はアメリカが英國から獨立して初めての事である、英國の元首が米國の首都を訪問されたと云ふことが、英國人が見て媚態外交だと申して居るのであります。實に面白い事には五月の八日でありましたが、私も出席した一人ですが、ワシントンに園遊會が開かれまして主なる外交官、上下兩院議員などが拜謁を仰せつかつたのであります。私自身は其の光榮には浴しませんでしたけれども、英國には皇后陛下に對して婦人の方が御禮

をする禮式がある。頭を地上に著くが如く非常に平らにして左の足を後ろに引いて三度參拜を致すのであります。是は英國の禮式であります。或る上院議員の妻君が英國型の流儀其の儘をやつて、皇后陛下に敬意を表されたさうであります。是はまあ何でもないことでありますが、ワシントンの大きな新聞は人を揶揄する樣に書くことが多いのでありますが、斯う云ふ書振りをしました。「大米國の婦人にして小英帝國のクイーンに何だつて大英帝國時代の禮式を採用するのか」と。之を見て私の友人の英國人は實に憤慨して「一體こんな事を書かれると云ふのは國務省は何をして居る、國務省ばかりでなく英國大使某は怪しからんぢやないか」と云ふことにまで憤慨致して居るのであります。ルーズベルト大統領が持つて居るハイド・パークの別莊がありますが、其の別莊まで御訪問になつた。英國人の友人は「別莊まで行く必要がないぢやないか」と大憤慨して居る。彼方にはホット・ドッグと云ふものがありまして非常に美味しい、野球なんかへ行きますと、軍人などがスタンドの下で食べて居る。日本のおでん位に當るのでありませう。兩陛下がハイド・パークを御訪問に相成つたばかりでなく、そこの別莊の前で兩陛下ともホット・ドッグを嚙つて居る寫眞まで撮つて出して居る。「一體是までにしてアメリカ國民の御機嫌を取らなければならぬのか」と憤慨して居りました。

更に、兩陛下が米國から英國に御歸りになつて一週間ばかり經つて、イギリス大使がホワイト・ハウスを訪問して「非公式に御尋ね申すのであるが、一國の元首が他國を訪問に相成つた場合、訪問された國の元首が訪問した國の元首を訪問に相成ることが例になつて居りまするが、一體御渡英になる御豫定でありませうか」と云ふ御伺ひを致した。處が例のアーリー秘書官は「そんなことは私は知りません。御伺ひして置きますから明日又御出で下さい」、其の翌日大使が出頭に及ぶと「御希望は勿論のこと、御渡英になる御豫定は一つもルーズベルト大統領はございません」、是も英國人に言はせると、「そんな伺を爲すと云ふことも怪しからんが、そんなことで引下つて來るとは何事だ、國威を失墜することも夥しい」といふのであります。是は其の儘御紹介申すのでありますが、斯樣に憤慨しなければならぬ程媚態外交をやつた結果として、英國は米國からどれだけの精神的な支援を得て居るかと云ふことは想像以上だと思ふのであります。殊に先程秘密會議に關聯致して申しました如く、一體此の英米間に海軍の秘密協定有りや否やと云ふ問題の如きまで想像し得られる事項だと思ふのであります。巷間傳へられる所に依りますと、支那問題に關聯して、米國が所謂デモクラシーのイデオロギー的考へ方から、英國との間に一つの申合せを持つて居ると云ふことを申す者もございます。私共は左樣なものは書いたものはないと思ふ。けれども書いた證文があるないと云ふやうなことを言ふことは水臭い。英米の間なぞは書いたものなしに、唯目くばせで行けるだけの間になつて居ると思ふ。其の點では、或る意味に於て紳士協定のやうなものはあるかも知れんと云ふことを感ずるのであります。

私はまだ澤山申上げたい事がありますが、最後に最近日本の持つて居る重大問題である支那事變について一言致して見たいと思ふのであります。此の支那問題について、特に今話題になつて居りますのは、近く成立の手筈になつて居ります汪精衞を首班とする新中央政權であります。此の新中央政權が出來ますに當りましては、日本以外の各國に於ても相當な働きを爲すであらうと思ひますが、此の新中央政權は第一に日支間の和親の政策、第二に日本の最も重きを置いて居ります所の防共の政策を取るのでありますから、日本としては物心兩方面に於て之を支援すべき當然の新政府でございます。此の新政府が成立するに當りまして、列國はどう動くでありませう。

此の點につきましては色々な事を申上げなければなりませんが、時間もありませんから唯一言致したいと思ひます

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

のは、アメリカの動向が最も注意すべきものだと思ふことであります。一體アメリカは何故斯様に支那問題について日本に絡むのかと云ふことであります。去年の七月二十六日私自身が國務省に於て日米通商條約廢棄の通告を受取つて參つたのでありますが、あれを受けた瞬間の私の感じましたことは、あの廢棄通告は通商條約を廢棄するが如きものではないのである。通商條約以上――以上どころぢやない、通商條約の廢棄と云ふことを言つて居りましたのは、唯是は一つの形式を採つたのであつて、實際は支那に於ける日本の行動に對する全面的否認であります。日本の支那に於ける行動は承認が出來ない、あんなことはどうも解し難いものである、之をはつきり言へば千九百三十七年七月七日蘆溝橋事件以前の狀態に返して貰はなければならぬ、と云ふやうな考へ方をして居つたのだらうと思ふのであります。何故斯様にアメリカは支那問題について深く絡むのか。利害關係から申しますならば、英國其の他の國などと比較にならぬ程小さなものである。米國人に言はせましても、アメリカの支那に持つて居ります利害關係はアメリカ人が一年間に吐出すチューインガムの値段しかない、其の僅かなチューインガムの爲に戰はぬといふことを米國人自身が言つて居るにも拘らず、其のアメリカ人は支那問題について何故日本に絡むのか。

茲で私は先程申しました思想戰に返るのでありますが、アメリカは建國以來、ピューリタニズムに基づいたデモクラシーを以て立てゝ參つた根源であらうと思ふのであります。もう一つ言ひ換へればアメリカは支那と云ふ國をアメリカ化して行くことが出來ると思つたからであります。此の嚴然たる證據を私は見たのでありますが、千八百五十年代米國の公使として參つたウォーズといふ人、其の夫人は支那人でありましたが、此の人に大統領の與へられた注意書を見ますと、米國が支那に公使を送る所以のものは、支那と云ふ野蠻國、支那と云ふ野蠻人を育て上げて教育する爲である。育て上げて教育する方法は多々あるのであるが、之にアメリカの文明を植付けよと言つて居るのであります。此のアメリカ文明を植付けることが、アメリカニズムの正道である。私はアメリカが有つて居る思想戰的根據として支那をアメリカ化して行かうといふことが問題であると思ふのであります。さうだとすれば、米國が支那に執つて居ります行動には言ふに言はれぬ惱みがあると同時に憤懣があるのであります。此の點に對しましてはアメリカの支那に對する思想戰、アメリカの日本に對する思想戰には、實に深刻なるものがあると思はざるを得ないのであります。

最後に一言致したいと思ひますことは、最近の思想戰を顧みまして、日本が一番外國に對して今引け目を取つて居る事實は何かと云ふと、日本の津々浦々に廣がつて居ります所の「米が無い」、「炭が無い」、「物が足らない」と云ふ宣傳でございます。私は日本自からが弱い思想戰をやつて居ると思ふのであります。是は誠に由々しき大事でございます。蔣介石に百萬の武器を與ふるものは決してアメリカやイギリスやフランスの援蔣行爲ではありません。寧ろ斯くの如く日本は物が足らない、日本は惱みつゝあると云ふ報道其のものであると思ふのであります。私は竊かに恐れるのでありまして、一體日本は左樣に物が足らないか、と云ふことを外國方面と比較致したい爲に、最近各在外公館に電報を發しまして、既に戰爭をやつて半年しかならない英・獨・佛の物資の現狀を調べて見たのでありますが、まだ半年にしかならぬ英・獨・佛の方が、二年有半戰時に立つて居りまする日本よりも遙かに物資が窮乏致して居ります。而して獨逸と雖も英國と雖も或は佛と雖も堂々たる思想戰を張つて、大英帝國のソリダリテーの爲に、或は民族の力の爲に戰ひつゝあるのであります。我が日本は二年有半の聖戰の一つの段階に參りまして、其の效果漸く現れむとする此

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の秋に當つて、自から負けの思想戰を張つて、物が足らないと言つて居る。是は卽ち私は精神的の不安、社會的の不安であらうと思ふのであります。今一つのことは、支那事變などと云ふものは早く處理が出來るものだと云ふ考へに起因して居ると思ふのであります。私は支那で十一年暮して參つたのであり、支那事變が起ります直前まで多くの密偵を付けられ、多くの武裝した憲兵に守られながら蔣介石と交渉に當つた人間でありますが、此の支那事變といふものはなか〳〵片付く問題ではありません。我々の子々孫々に與へられる大きな問題でもあると思ふのであります。此の秋に當りまして、獨り蔣介石に對してのみならず、其の後ろに控へて居りますソヴィエト・ロシアに對しましても、更に其の後ろに控へて居りますデモクラシー米國に對しましても、我が日本はまだ十年や二十年は續くぞと見せる、是程強い宣傳戰、思想戰はないといふ一言を殘して此の講演を終りと致します。